



2月18日(水)
「感覚統合とあそび」
 講師 作業療法士 新井 亮子 先生

新井先生の講義を聞かせていただいた後に、保育園(所)・こども園・小規模園・児童発達支援事業所の先生方がグループに分かれて、日頃の保育や療育の悩みや思いを交流しました。その中で出た質問に新井先生にお答えいただきました。

Q.放課後等デイサービスに来ている1年生が学習になると「〇〇先生と一緒にしないとやらない」と言って、その先生と一緒にすると甘えてできない姿があり、どこまで子どもの願いをかなえたらいいのか悩んでいます。

A. その先生と一緒にいい理由は何でしょうか?この先生から関わり方や学べるポイントがあると思います。また、好きなことだけするのではなく、交渉も必要です。自分で選べる学習方法であったり、やり取りをしながら最終選択は子ども任せすることも大切です。

Q.年少の担任をしています。保護者から「うちの子に療育は必要なのですか?」という相談があり、どのように伝えていいのか悩んでいます。

A. 担任に悩みを伝えておられるということは、担任との信頼関係が築けているということです。保護者が子どもの育ちを受容するには、時間が必要な方もおられます。まずは、保護者の気持ちを傾聴し受けとめることが大切です。

Q. 2歳児 ズボンや靴をぬぎたがったり、服の袖を噛んだりするのですが、どうしたらいいですか。

A. 感覚を求めているのかもしれませんが。トランポリンなどの動きのある遊びや重たい物を運ぶお手伝いをしてもらったりするといいです。服の袖を噛むことは、噛むことで気持ちをコントロールしているのか、ストレス反応があるのかなど背景をみていくことも必要です。



作業療法とは…

人が生活する中で・したい活動・することが期待される活動・する必要がある活動をその人らしく行えるように支援することです。

作業療法では、「人(子ども)」「環境」「作業(活動)」の3つの関係性に注目します。その人の力だけを見るのではなく、環境や活動内容とのバランスを整えることで無理なく参加できる方法を考えていきます。



感覚統合の視点

私たちは日常生活の中で、視覚、聴覚・前庭感覚(バランス感覚)・固有感覚(筋肉や関節の感覚)・触覚など、さまざまな感覚を統合して行動しています。これらの感覚がうまく整理されることで・姿勢を保つ・話を聞く・集中することがしやすくなります。活動を通して感覚を整え、成功体験につなげていくことが、感覚統合の支援です。

感想

気がかりな子どもの姿をどんな理由でその行動をしているのか、色々な視点から分析することの大切さが分かりました。感覚欲求を満たす遊びを具体的に教えていただいたので、子どもの姿に合わせて遊んでいきたいと思っています。